



2/6 おひな様を春の香りとともに



▲時代を超えて受け継がれるおひな様を鑑賞する来場者

3月21日まで、磐田市香りの博物館で「おひな様と春の香り展～いとむかしの雛人形～」が開催されました。会場には、豊岡地区に残る江戸時代後期から現代までの雛人形が集まり、万葉集にも詠われた梅や桜といった春の花の香りとともに楽しむことができる展示でした。

来場者は「かわいらしいおひな様と香りを一緒に楽しめて、とても心が安らぎます」と話しました。

2/1 市役所窓口で「PayPay」開始



▲PayPayの利用説明をする窓口職員

2月1日から、市民の利便性を高め、現金収受による新型コロナウイルス感染症などの感染防止のため、市役所の一部窓口で、支払い方法としてスマートフォンの決済アプリ「PayPay」が導入されました。利用した市民は「コロナ禍での現金のやり取りが心配だったので、キャッシュレスが利用できると安心して便利です。」と話しました。

市では、今後も利用窓口を拡大していく予定です。

2/8 平和を願うポスターが世界へ



▲小林会長(右)から、表彰状や記念品を受け取る本間(左)さん

子どもたちに平和について考え、芸術に親しむ機会を提供することを目的とした、ライオンズクラブ国際協会主催の「第33回国際平和ポスター・コンテスト」で、磐田第一中学校1年生の本間佐徠さんの作品が、応募作品2,985点の中から1位に選ばれました。

本間さんは「奉仕の心は、自分や身の回りの幸せだけでなく、お互いを思いやることから生まれると感じ、その思いを込めて作成しました」と話しました。

2/3 オリ・パラトーチがやってきた



▲美しく輝くオリ・パラトーチ

市役所本庁舎1階の展示コーナーに、東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレーで使用されるトーチのレプリカが1日限定で展示されました。

トーチは大会組織委員会から各都道府県に1組ずつ譲渡され、展示を希望した県内全35市町で巡回展示されました。

来庁者は、トーチとともに記念撮影をするなど、開幕への期待を膨らませていました。



2/19 楽しく学んで、フレイル予防



▲フレイル予防の大切さを寸劇で伝える劇団員たち

終活を踏まえた老後について考える講座が、井通交流センターで開催されました。

講座内では、フレイル(年を重ね、心身の活力が低下した状態)予防の大切さを発信するため、市民劇団「元気な仲間プロダクション」による寸劇が初めて上演されました。代表の栗山章子さんは「寸劇を通してフレイル予防の大切さを知り、毎日明るく元気に過ごしてほしい」と話しました。

2/10 地元野菜・コールラビが給食に



▲珍しい野菜・コールラビのポトフをおいしそうにほおぼる児童

市では、地元農家が作る新鮮な野菜を学校給食で提供し、生産者による講話も合わせた「地産地消プロジェクト」を行っています。

竜洋西小学校の永井優汰さん(6年)は「地元で作られたおいしい野菜を食べられてうれしい」と話し、今回使用したコールラビを生産している農家の花積義人さんは「地域の方や子どもたちを笑顔にできてうれしい」と語りました。

2/25 昔の学校ってどんなところ？



▲石板にチョークで絵を描き、誇らしげに掲げる園児たち

今年の春に小学1年生になる二之宮保育園の園児21人が、旧見付学校へ見学に行きました。

園児たちは、先生が弾く昔のオルガンに合わせて歌を歌い、昔の教科書を使って授業の模擬体験をするなど、一足早く小学生気分を味わいました。

石板を見た園児たちは「これで絵が描けるの?」「こんなの見たことない!どうやって使うの?」と先生に質問しながら、楽しそうに絵を描いていました。

2/13 ながふじ学府小中一体校竣工式



▲新校舎の完成を祝い、テープカットをする参加者

4月に開校する「ながふじ学府小中一体校」の校舎が完成し、地域や学校関係者約100人が参加して竣工式が行われました。

渡部修市長は「ここからがスタート。学校、家庭、地域が力を合わせて、たくましい磐田の若者を育てていきたい」とあいさつしました。

午後はながふじ学府内の市民の方が一般公開に訪れ、熱心に見学していました。